

Contact Pressure of the Coracoacromial Arch in Shoulders with Joint Contracture: A Cadaveric Study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 塩田, 有規 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001886

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1743 号

Measurement of Contact Pressure of the Coracoacromial Arch in Shoulders with Joint Contracture: A cadaveric study

(拘縮肩における腱板と烏口肩峰アーチとの接触動態：新鮮凍結屍体を用いた研究)

塩田 有規 (しおた ゆうき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、临床上最も遭遇する肩痛の原因である、「凍結肩」の運動連鎖 (Kinematics) を、Cadaver (新鮮凍結屍体) を用いて調査し、拘縮を起こした肩では肩関節運動時の Kinematics に変化が起きその結果、腱板と肩峰との接触圧が上昇し、かつ接触位置に変化が起きていることを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

今まで、肩関節運動時に腱板と肩峰が接すると、その摩擦が腱板および肩峰下滑液包に悪影響を与え、impingement 症候群や腱板断裂の原因になると考えられていた。しかし、本研究から正常な肩でも腱板と肩峰との接触は起こっていることが確認され、接触があっても異常な状態ではないことが分かった。さらに、拘縮肩では運動時に Kinematics が変化し、正常とは違い運動初期から上腕骨頭が前上方や後上方へ移動しており、かつ腱板と肩峰との接触圧が上昇していた。すなわち、肩関節運動時の腱板と肩峰との接触があること自体は異常な状態ではないが、凍結肩患者では Kinematics が変化し、接触圧が上昇し、肩峰下滑液包炎や腱板炎などの疾患を惹起している可能性が示唆された。

さらに、凍結肩患者の治療のゴールドスタンダードはリハビリテーションであるが、そのリハビリテーションの手法についても、本結果を参考に改善していくことが可能である。

このように凍結肩 (拘縮肩) の病態解明、治療法の改善に示唆を与え、臨床に直結する研究であるといえる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。